

藻場分布状況モニタリング調査

(藻場分布状況モニタリング調査)

開内 洋・佐々木 正

1. 目的

近年、全国的に藻場が衰退傾向にあり深刻な問題となっている。そこで、県内の大型海藻を主体とする藻場分布状況について継続的なモニタリング調査を行うことにより、近年の藻場減少の現状把握を行うとともに、その原因について明らかにする。

2. 方法

調査は松江市沖泊（沖泊漁港南側）、出雲市坂浦（若松鼻東側）の2地区において大型海藻の繁茂時期である春季に空撮および潜水調査を、衰退時期である秋季に潜水調査により実施した。

空撮調査では、ドローン（DJI 社製 Phantom4）を用いて各地区とも海岸線距離 300～500 m の概ね水深 10 m 以浅の範囲の藻場の分布状況の把握を行った。ただし、秋季の調査についてはドローンの故障により、空撮画像を取得できなかった。

潜水調査では、各地区とも2本の調査ライン（長さ 100 m）を設けて、ライン上 10 m 毎に海藻の被度を目視により記録した他、50 cm×50 cm の方形枠を用いた坪刈り調査（ベルトトランセクト法）を実施し、藻類の種類や現存量を把握した。

なお、昨年度まで調査を実施していた知夫村薄毛（大波加島西側）地区については、現地の都合により調査が出来なかった。

3. 結果

(1) 春季の調査結果

沖泊地区（調査実施日：2023年6月22日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ノコギリモク・ヨレモク・ヤツマタモク・オオバモク・ウミウチワで、海藻類の被度は30～100%、単位面積当たり重量は0.2～10.7 kg/m²の範囲であった。潜水調査の結果、前年と比較して藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

坂浦地区（調査実施日：同年6月14日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ワカメ・ノコギリモク・ジョロモク・ヨレモク・マメタワラ・ヤツマタモクで、海藻類の被度は50～100%、単位面積当たり重量は0.1～10.8 kg/m²の範囲であった。潜水調査および空撮調査の結果、前年と比較して藻場

の分布状況に大きな変化は見られなかった。

(2) 秋季の調査結果

沖泊地区（調査実施日：同年10月18日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ノコギリモク・ヤツマタモク・ヤナギモク・イソモクで、海藻類の被度は0～100%、単位面積当たり重量は0.7～6.4 kg/m²の範囲であった。

坂浦地区（調査実施日：同年10月24日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ノコギリモク・ヤツマタモク・ヨレモク・イソモクで、海藻類の被度は10～100%、単位面積当たり重量は0.2～3.9 kg/m²の範囲であった。水深3 m 付近のアラメの枯死が確認された（図1）。7～9月の坂浦の水温データから水深2 m ではアラメの高水温限界となる概ね28℃を超える期間が連続して17日間観察されたことから、高水温による枯死と考えられた（図2）。



図1. 枯死したアラメ

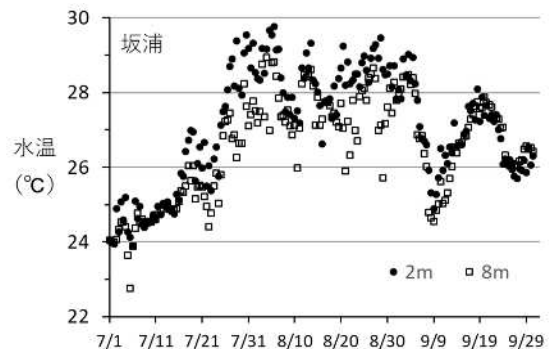


図2. 坂浦の7～9月の水深別水温

4. 成果

調査で得られた結果は、漁港漁場整備課が推進する藻場回復のための広域的対策（藻場ビジョン）の策定を行う際の資料として活用された。